

### 3 花 き

項 目	作 業 内 容
<p>(1) デルフィニウムの生育初期の管理</p> <p>(2) シクラメンの管理</p>	<p>(今月の作業のポイント)            デルフィニウムの生育初期の管理            シクラメンの管理            年末出荷電照ギクの消灯</p> <p>本県の主力品種である‘ガンマーアーミー’や‘ブルーマジック’等は、9月22日頃に植え付けられた。このことから、1番花の出荷時期は12月上旬となる見通しである。初期生育管理については、次の点に注意する。</p> <p>定植から1～2週間は、3日に1回程度1,000倍程度に薄めた液肥を施用するとともに、風の強い日には葉からの水分蒸散が増大するため葉水施用によるしおれ防止を心がけ、活着促進に努める。生育初期の水管理は特に重要で、10月は多めにかん水することにより、地温の低下を図りながら生育を促進させる。</p> <p>気温は、10月も平年並または高いと予想されることから(9月23日高松地方气象台発表)、昼間はできるだけ気温を低めに保つ。定植後1週間から10日程度は、遮光率50%程度の寒冷紗で被覆するとともに、循環扇等を活用して日中の昇温防止に努める。10月下旬になると夜温もかなり低くなるため、サイド被覆も行って夜温が8℃以下にならないよう保温する。</p> <p>病虫害防除では、特にうどんこ病とヨトウムシ類に注意する。</p> <p>10月の中旬以降は夜温も低下してくるため、15℃以下にならないよう適切に保温・加温を行う。また、ハウスを閉めると灰色かび病の発生が多くなるため、暖房機の送風ファンや循環扇等で空気の対流を図る。</p> <p>肥培管理は、窒素：リン酸：加里を2：1：3程度とし、窒素濃度で75～100ppmの液肥を基本に、株の状態を見ながら施用する。</p> <div data-bbox="821 555 1385 963" data-label="Image"> </div> <p>写真1 定植直後の苗</p>

項 目	作 業 内 容
<p>(3) 年末出荷電照ギクの消灯</p>	<p>また、幼葉の生長と花芽の充実、花首の徒長防止、さらに鉢のバランスを良くするために、月1回は葉組みを行うとともに、病害の発生源となる枯れ葉も除去する。</p> <p>年末出荷用電照ギクの消灯時期は、栽培温度条件や品種などによって異なるが、一般的には出荷予定日の50～60日前の10月上旬から中旬である。開花時の草丈は消灯時の草丈の約2～2.5倍となるので、消灯時には最低35～40cmの草丈を確保しておく必要がある。</p> <p>上位葉が小さくなる症状であるうらごけの防止（上位葉の葉面積確保）や舌状花の増加など切り花品質の向上を目的に再電照を実施する場合には、通常の消灯日より再電照を実施する日数分だけ早く消灯を行う。一般的には、消灯後12日目頃より再度3～4日間電照を行うが、実際には花芽の発達ステージが総苞りん片形成期から小花形成期の間には達しているときに実施しなければ効果が劣るので、再電照を開始する前には顕微鏡による確認が必要である。</p> <p>なお、再電照により花首が伸びやすい品種は、これを抑制するために蕾が小豆大の頃にビーナイン等（わい化剤）を散布する。</p>

（作成 農林水産研究所）